

「新発見！かごしまの遺跡 2019 ～発掘調査速報展～」企画展講演会

上野原縄文の森で開催中の第55回企画展にあわせて、8月24日（土）に企画展講演会が行われました。鹿児島市の滝ノ上火薬製造所跡や志布志市の春日堀遺跡について、実際に調査を担当した職員が発掘当時の現場の様子を詳しく解説しました。来場された方々からは、「遺跡の雰囲気を感じることができた。」「発掘調査の大変さだけでなく、楽しさや醍醐味が伝わってきた。」などの感想をいただきました。

講演終了後は、企画展示室で講師による展示解説が行われ、多くの方が遺物にまつわる様々な逸話や貴重な情報に耳を傾けていました。



鹿児島県文化振興財団体験フェア 2019

鹿児島県文化振興財団では、財団各施設の活動を体験できる「みてきてあそぼう！鹿児島県文化振興財団体験フェア」〈8月31日（土）～9月1日（日）〉を、鹿児島市の宝山ホールで開催しました。当センターは、発掘調査中の遺跡の紹介や出土した土器・石器などの展示のほか、「ユースケ先生の考古学講座」を企画し、地層から昔の歴史を読み解く方法などを多くの方々へ紹介しました。

また、これに先立ち6月9日（日）には、始良市にあるイオンタウン始良で先行フェアを行い、「土器どきぬりえ」などを多くの参加者に楽しんでもらいました。



(公財)埋蔵文化財調査センターのホームページは、上野原縄文の森 (<https://www.jomon-no-mori.jp>) または、鹿児島県文化振興財団 (<http://www.houzanhall.com/zaidan/>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

～かごしまの遺跡～ 第20号

発行日 令和元年9月27日
 編集・発行 (公財)鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター
 〒899-4318 鹿児島県霧島市 国分上野原縄文の森2番1号
 TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0575
 URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
 E-mail: maibunchosa@tuc.bbq.jp



～かごしまの遺跡～

第20号 令和元年9月27日



土坑の検出状況

赤の破線部分を掘り下げた様子

焼けた土坑の謎

六反ヶ丸遺跡 (出水市六月田町)

六反ヶ丸遺跡は、出水平野を流れる米ノ津川の右岸、標高約6mの小高い場所にあります。写真は、旧水田面の下から見つかった一辺が約1.8mある隅丸方形の土坑です。壁面は赤く変色し、硬くなっています。土坑内から出土した遺物により、時代は9世紀後半頃（平安時代）のものと考えられますが、どのような目的で使用されたのか分かっていません。これは一体何が行われた跡なのか、当時の人々からクイズを出されているようです。

第1 整理作業所

第1 整理作業所は上野原縄文の森の隣接地に所在しており、長さ約81mの建物の中で県内各地の遺跡の整理作業が行われています。

《安良遺跡》

志布志市志布志町安楽に所在する遺跡で、現在は出土した古墳時代の土器や土製品、古代・中世の陶磁器・石製品などの図化・復元・製図作業を進めています。写真は、土器の実測作業です。実測する遺物のサイズに応じて工夫して作業を行っています。



《宮脇遺跡・安楽小牧B遺跡》

宮脇遺跡は、曾於郡大崎町井俣の標高50mの台地にある旧石器時代～縄文時代早期を中心とした遺跡です。安楽小牧B遺跡は、志布志市志布志町安楽のシラス台地に所在する、旧石器時代～近世の遺跡です。

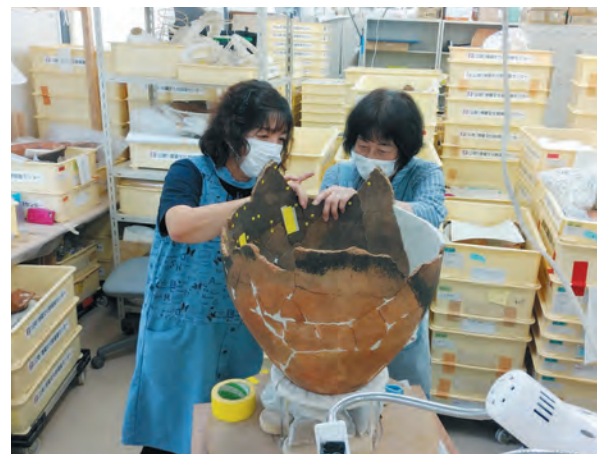
写真は安楽小牧B遺跡で出土した、縄文時代早期中頃の下剥峯式土器です。縦長のコブ状の突起と刺突による規則的な美しい文様が特徴です。



《春日堀遺跡》

志布志市菱田川右岸にある標高約30mの河岸段丘上に位置する集落遺跡です。本年度は、当センターによる整理作業と同時に、民間会社に整理作業の一部を委託しています。

写真は、古墳時代（約1,700年前）の大甕の復元作業です。この大甕は、焼けた堅穴住居跡からバラバラに割られた状態で発見されました。高さ65.5cm、重さ約15kgと大型のため、復元には高い技術と経験が要求されます。微妙な角度の違いなどを何回も見極めながら慎重に作業を行い、完成までに2ヶ月かかりました。



《細山田段遺跡》

曾於郡大崎町西持留にある縄文時代前期末～中期前半（約5,000年前）の遺跡です。現在、大量に出土した土器の図化作業の準備などを行っています。作業が進むにつれて、形や文様の特徴が明らかになってきました。



《永吉天神段遺跡》



今年度で最後の報告となる「縄文晩期・弥生・古墳時代編」が刊行予定です。曾於郡大崎町の持留川とその支流に挟まれたシラス台地縁辺部にある弥生時代の集落遺跡で、写真は、当時の墓から出土した甕や壺、石鏃です。

《山ノ上B遺跡・白水A遺跡》

山ノ上B遺跡は、鹿屋市西部の鹿屋体育大学の裏側にあります。今年度の整理作業で、古墳時代の堅穴住居跡から出土した土器片を接合すると、古墳時代前期の完全な形の「台付鉢」になりました。

白水A遺跡は、山ノ上B遺跡の約1.5km東側に位置しています。出土した遺物の数はあまり多くありませんが、山ノ上B遺跡と同時期のものもあります。両遺跡の関係や国道220号の路線にあった10か所の遺跡の関連が分かる貴重な資料です。



《六反ヶ丸遺跡》

表紙で紹介したこの遺跡からは、他にも古墳時代の住居、古代の土器焼成土坑や礫敷遺構、近世の掘立柱建物跡や石組遺構などが見つかっています。

現在、出土した膨大な遺物の汚れを取り除く「水洗」と、必要な情報を遺物に書き込む「注記」などの基礎的な作業を行っています。

第2 整理作業所

第2 整理作業所は霧島市立福山中学校跡に設置されており、学校施設としての特徴を生かしながら整理作業が行われています。

《荒園遺跡》

曾於郡大崎町の持留川と田原川に挟まれた標高約50mの台地の縁に位置しています。今年度は、200本以上の石鏃と大量の土器が出土した縄文時代早期を中心として整理作業を行っています。

出土した土器は、塞ノ神式土器と苦浜式土器です。特に苦浜式土器は、出自や発生の背景などに不明な部分が多く、今後整理作業を進める中で解明の手がかりが見つけられればと考えています。



《川久保遺跡》

串良川右岸の河岸段丘上の標高約40mに立地する旧石器時代～近世の遺跡で、対岸には小牧遺跡があります。

写真の遺物は「畝原型細石刃核」です。細石刃核とは、細石刃というカミソリの刃のような小型の石器を剥ぎ取るための石です。畝原型は、丸く平らな小石（主に砂岩）を2つに割って細石刃核を作ったもので、宮崎県南部を中心とする南九州独特の技法で作られたものです。川久保遺跡では20点程が出土しており、鹿児島県内では、これまでで最も多く出土しています。



《小牧遺跡》

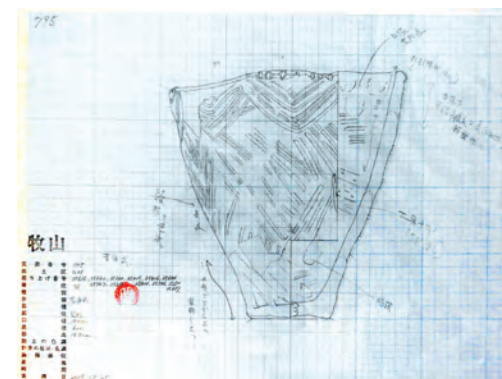
串良川を見下ろす標高約60mのシラス台地上にあります。旧石器時代～中世までの遺跡で、対岸には川久保遺跡があります。

現在は土器の接合作業を行っています。土器の接合では、遺跡からバラバラに細かく割れて出土した破片を「器種」「形・大きさ」「文様」「胎土」「調整方法・製作方法」などをよく観察して、同じ種類ごとに仕分けながら、一つ一つ組み合わせていきます。



《牧山遺跡》

鹿屋市串良町細山田に所在する、旧石器時代から中・近世までの遺跡です。本年度は、旧石器時代と縄文時代早期の報告書を刊行する予定で整理作業を行っています。縄文時代早期の石坂式土器と平椀式土器が多いことが特徴です。写真は、土器の形や文様を図化したものです。



※赤いのは「合格」のハンコです。

《田原迫ノ上遺跡》

田原迫ノ上遺跡は、鹿屋市串良町の北東部に位置し、弥生時代中期の堅穴住居跡や掘立柱建物跡、円形・方形周溝や縄文時代早期の堅穴住居跡40軒、連穴土坑21基など、当時の様子を知る上で貴重な遺構が数多く検出されています。

写真は、図化作業の場面で遺物の厚さを測っているところです。

